

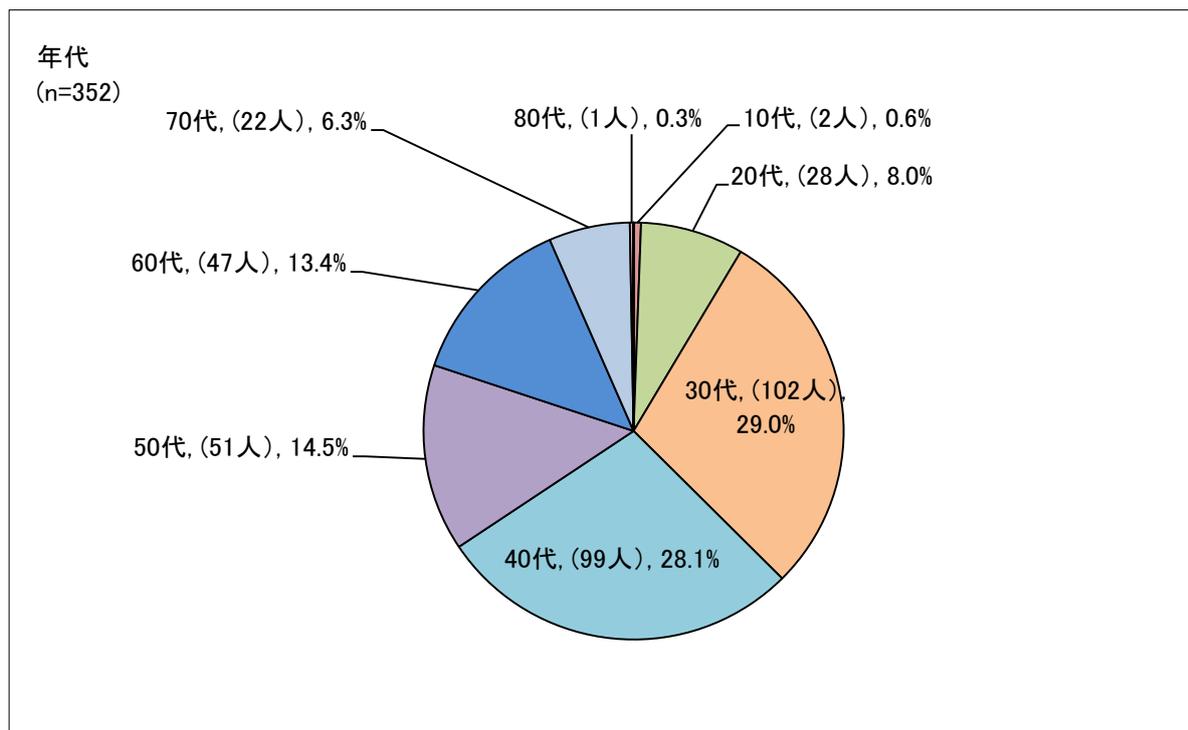
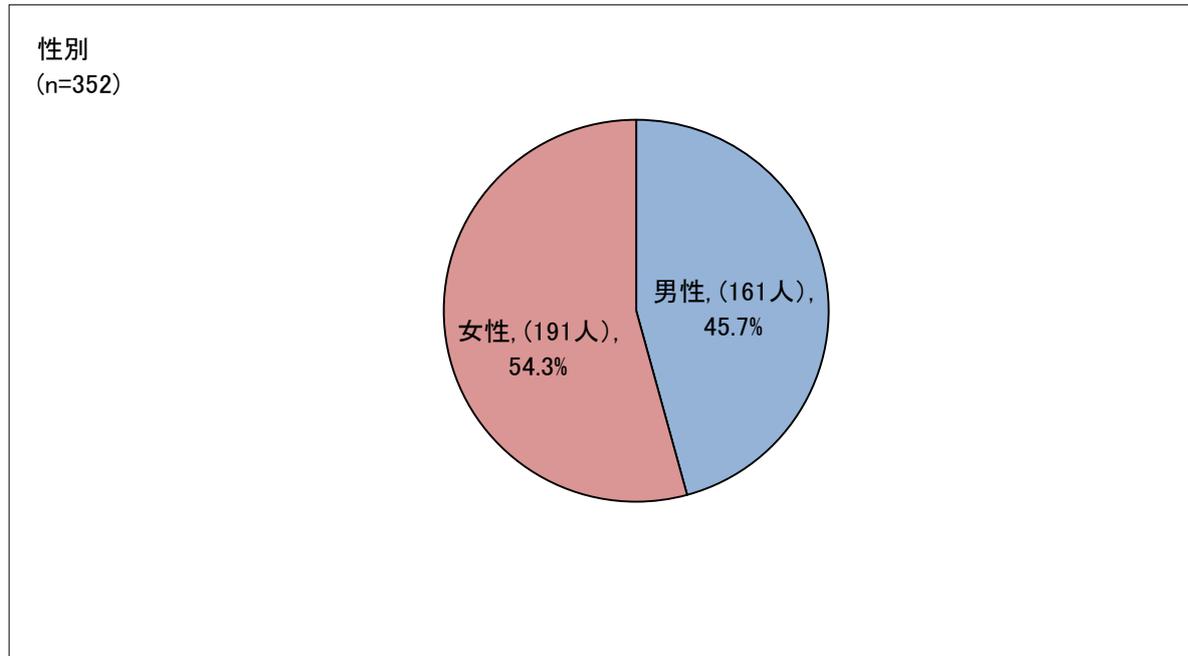
成田市インターネット市政モニター アンケート集計・分析結果（第35回）

第35回のテーマは「家庭での防災対策と帰宅困難者対策に関するアンケート」でした。

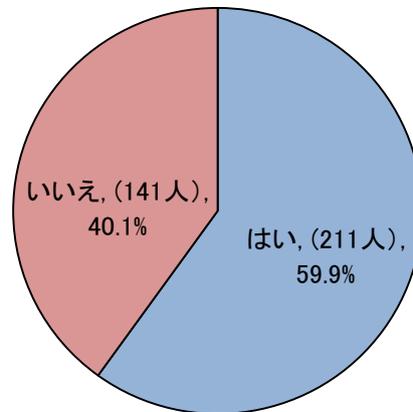
登録者数：536

実施期間：平成28年12月9日(金)～12月19日(月)

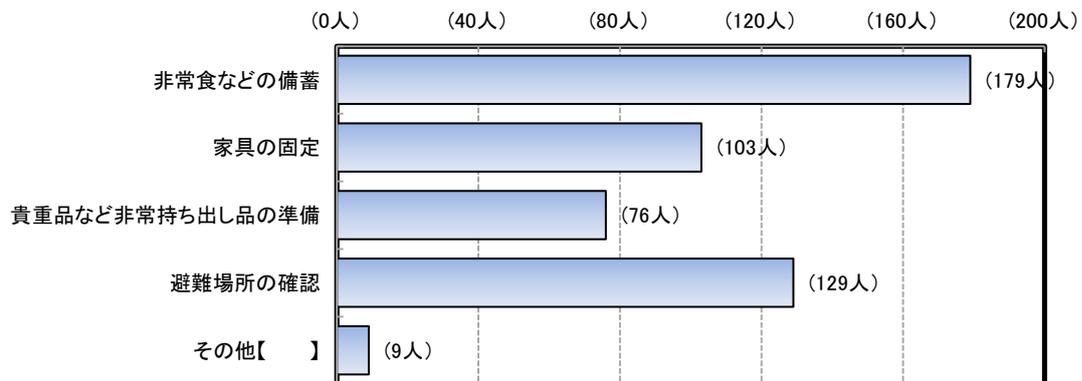
回答者数（回答率）：352人（65.7%）



[Q1]家庭で防災対策を行っていますか。(単一選択)
(n=352)



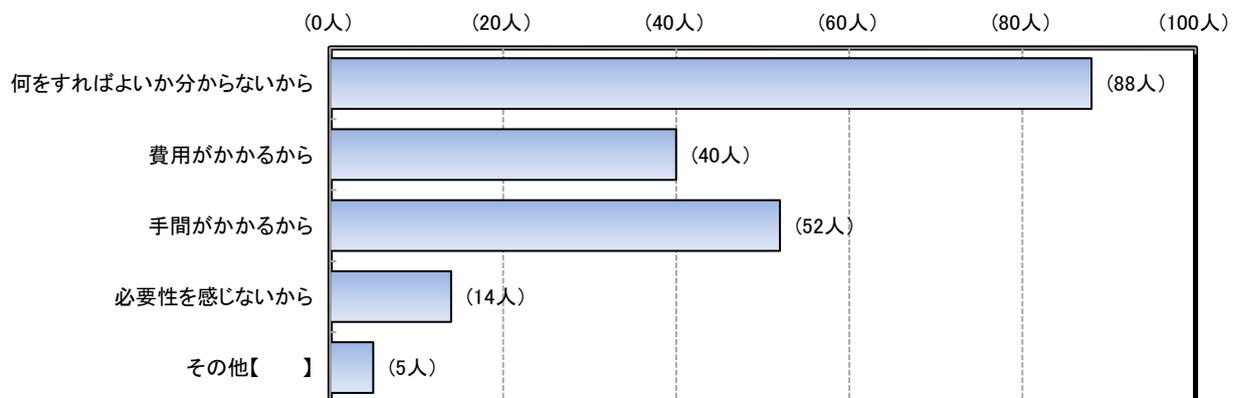
[Q2]どのような対策を行っていますか。(複数選択可)
(n=211)



「その他」として寄せられた意見は次のとおりです。

火災報知器の設置／地質の状況調査結果及び江戸時代からの状況変化の掌握／家族の安否確認の改善／太陽光発電／雨水タンクの設置／懐中電灯、携帯ラジオ、電池の買い置き／テントの用意／寝室に靴を用意。倒れそうなもの置かない。

[Q3]対策を行っていない理由をお伺いします。(複数選択可)
(n=141)



「その他」として寄せられた意見は次のとおりです。

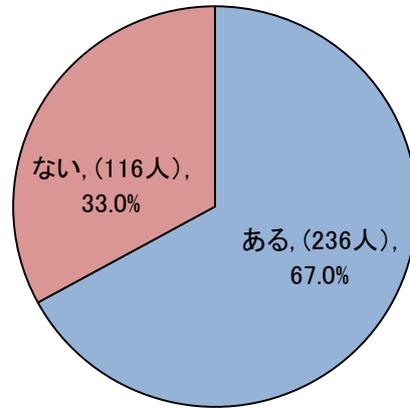
面倒くさくなってしまう／これからしようと思っている／以前、非常用セットを用意したが、そのままになってしまった／やらなきゃとは思っていても中々行動に移せて無い。

全体の6割程度の人は何らかの防災対策を行っていることがわかりました。

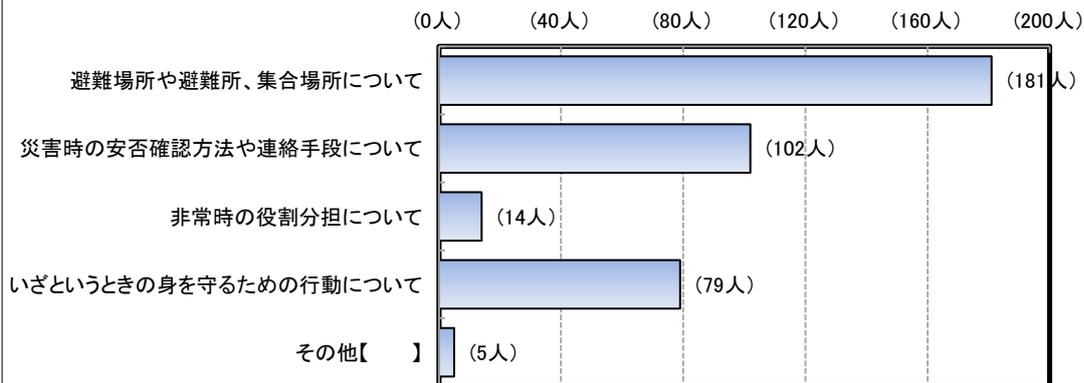
また、防災対策を行っていない場合でも、その必要性を感じない人は1割程度で、ほとんどの人が防災対策の必要性を感じていながらも、実行できていないことがわかりました。

大がかりなものから取り組むのではなく、食料の買い置きに長期間保存できる缶詰等を取り入れる、自宅の避難経路となる場所には物を置かないようにする等、あまり費用や手間がかからないことから始められることもありますので、取り組みやすく簡単にできることから対策を行えるよう、啓発したいと思います。

[Q4]家族で防災に関して話し合ったことはありますか。(単一選択)
(n=352)



[Q5]どのようなことを話し合いましたか。(複数選択可)
(n=236)



「その他」として寄せられた意見は次のとおりです。

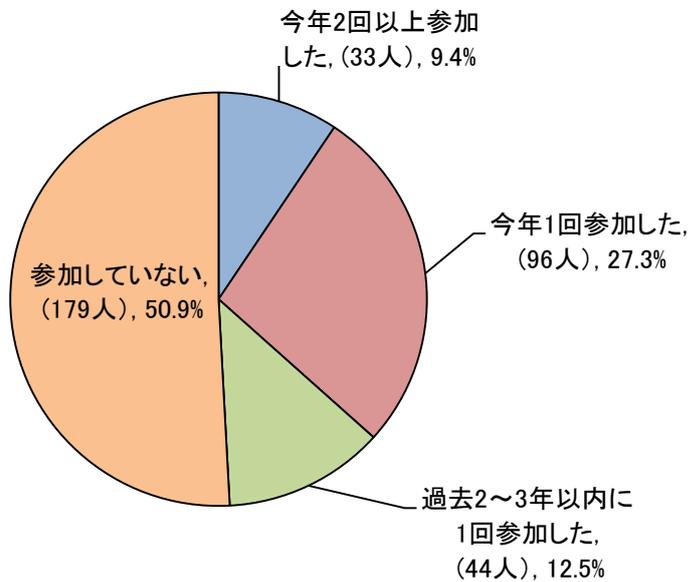
避難時に持参する物／防災用品について／備蓄品（薬等を含む）について

全体の3分の2にあたる人が、家族で防災に関して話し合ったことがあり、中でも、避難場所や避難所、集合場所について話し合っている人が多いことがわかりました。

避難場所を決めたら、昼と夜に歩いてみて、違いを確認する、複数のルートを歩いてみる等、状況を変え、実際に歩いてみることも重要です。

また、被災状況によっては、家族がそれぞれ異なる避難場所に避難することも考えられます。安否確認等の連絡手段については、災害時には携帯電話等が繋がりにくくなる場合がありますので、災害用伝言サービス（171番）やSNS等の活用も検討しましょう。

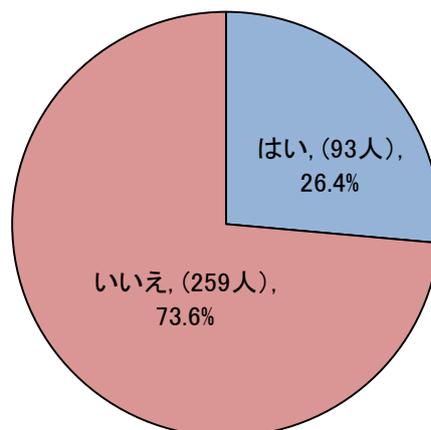
[Q6]学校・職場・地域において防災訓練など防災に関する取組みに参加しましたか。
(単一選択)
(n=352)



過去4年以上、防災訓練等の防災に関する取組みに参加していない人が半数以上いることがわかりました。

地域でも訓練が行われるよう、今後も自主防災組織等への啓発を続けたいと思います。

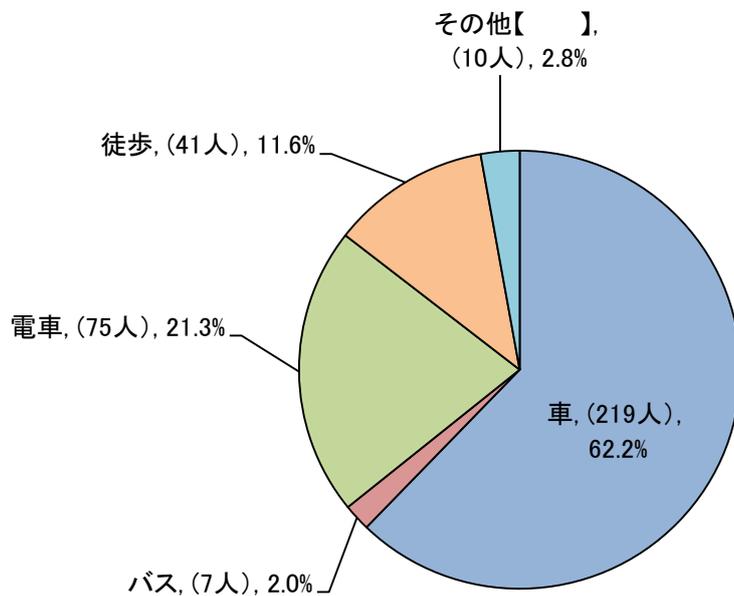
[Q7]外出先で被災した場合の避難場所は決めていますか。(単一選択)
(n=352)



多くの方が、外出先での避難場所を決めていないことがわかりました。

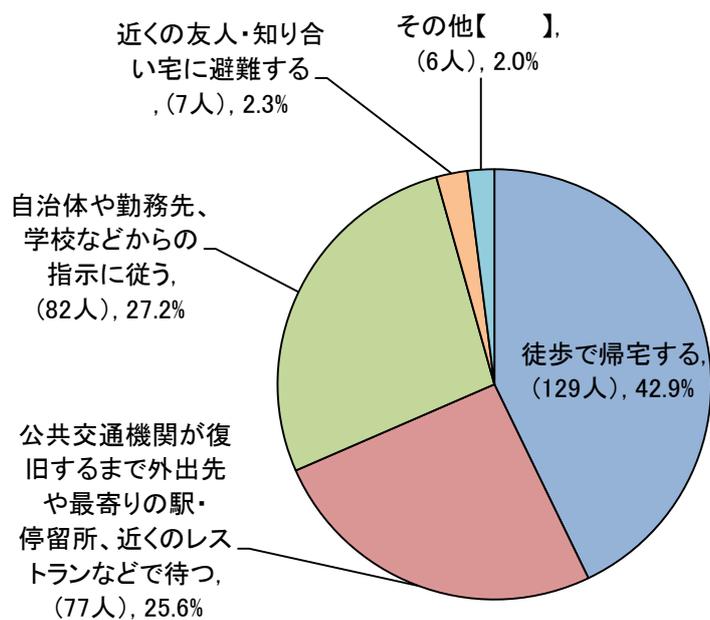
災害は、自宅にいるときに起きるとは限りません。とくに、職場や学校等、一日の中で過ごす時間が長い場所についても、避難場所を確認しましょう。

[Q8]外出先への交通手段として、主に使うものは何ですか。(単一選択)
(n=352)



「その他」として寄せられた意見は次のとおりです。
自転車／バイク

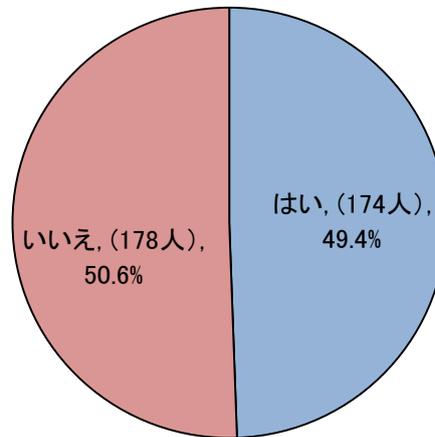
[Q9]外出先から車や公共交通機関を利用して帰ることができなくなった場合はどうしますか。
(単一選択)
(n=301)



[Q10]大規模災害の発生時に帰宅が困難となった場合は、救助・救急活動などの応急活動の妨げとならないよう、むやみに駅や自宅に向かって移動を開始してはいけないことをご存知ですか？

(単一選択)

(n=352)



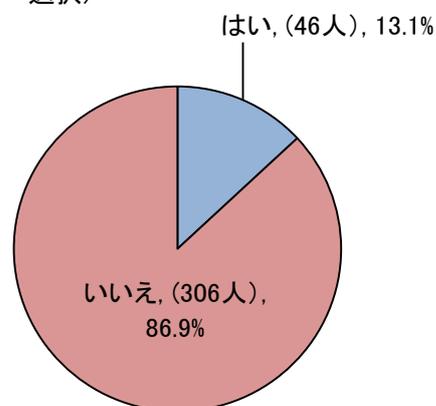
全体の4割以上の方が、徒歩での帰宅を試みると考えていることがわかりました。発災直後は、火災や家屋倒壊等、二次災害の危険がある上、道路が寸断され、想定していた帰宅経路で帰ることができない場合も考えられます。

また、災害発生時、帰宅困難者が一斉に徒歩帰宅を始め、道が多くの人で埋まると、警察・消防・自衛隊等の応急活動を行う車両の妨げとなり、救助・救急活動に支障をきたします。

むやみに移動を開始せず、安全な場所で待機しましょう。

[Q11]外出先から自宅まで徒歩で帰宅するルートにおいて、災害時帰宅支援ステーションの場所は把握していますか。(単一選択)

(n=352)

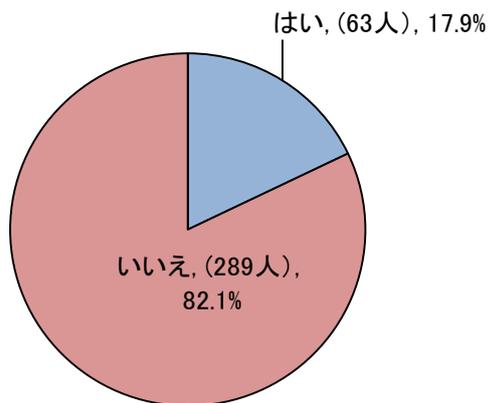


8割以上の人が、徒歩帰宅ルートにおける災害時帰宅支援ステーションの場所を把握していないことがわかりました。

災害時、やむを得ず徒歩で帰宅する場合は、平常時に徒歩で帰宅する場合よりも、要する時間や体力等の負担が大きいことが想定されます。水やトイレ、災害情報等を提供してくれる帰宅支援ステーションの場所は、複数確認しておくといいでしょう。※店舗等の被害の状況によっては、利用できない場合があります。

[Q12]外出するとき、飲料水や非常食(お菓子などを含む)、懐中電灯など防災用品を持ち歩いていますか。(単一選択)

(n=352)



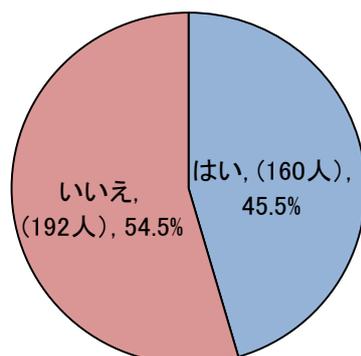
外出時に防災用品を持ち歩いている人は2割以下であることがわかりました。

外出時に被災し、自宅に備えていた防災用品を取りに帰ることができない場合も想定されます。また、外出先にとどまらなくてはならなくなった場合や、外出先からやむを得ず徒歩で帰宅する場合でも、水や非常食(チョコや飴等)等の防災用品があると安心ですし、夏場の被災時には熱中症対策にもなります。

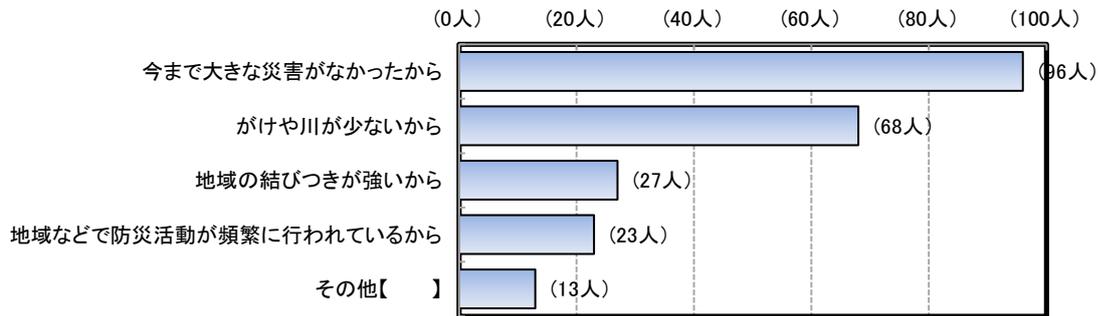
車で移動することが多い人は、車に防災用品を備えておく方法もあります。

[Q13]成田市は災害に強いまちだと思いますか。(単一選択)

(n=352)



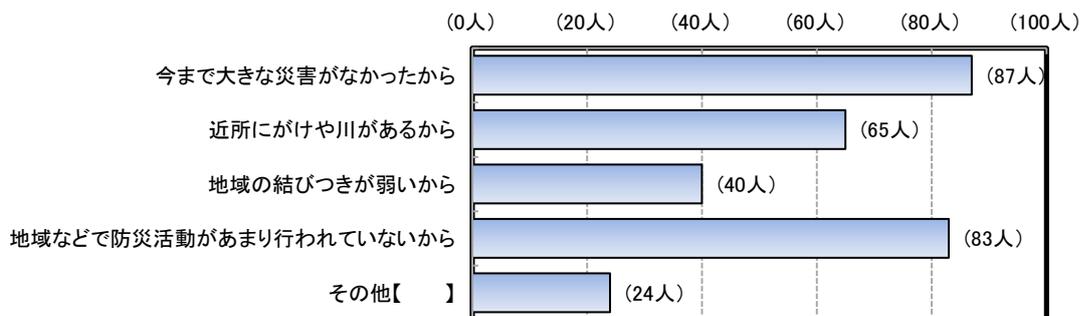
[Q14]「はい」を選択した理由をお伺いします。(複数選択可)
(n=160)



「その他」として寄せられた意見は次のとおりです。

新しい建物が多いから／ニュータウンは道幅が広いし、公園がたくさんある／このようなアンケートなどして、取り組みを強化しようとしているから。／津波の被害が発生しない／低い山地が多く地盤が強い方だ。／コミュニティ形成に積極的だから／水源の近くであり、洪水の可能性が非常に少ない。／三里塚地区は強そうです／成田空港があるから／広報紙で防災知識を高める特集などを目にするので。／たまに自然災害による事故が起きているが、被災の程度が低いことや復旧に要する期間が短い気がするから／成田ニュータウンの立地を信頼している

[Q15]「いいえ」を選択した理由をお伺いします。(複数選択可)
(n=192)



「その他」として寄せられた意見は次のとおりです。

それまでの準備ができていない／引っ越して間もない為、分からない／大雨時の浸水、土砂崩れが多いから／昔ながらの入り組んだ方位道やがけが多いと思うから／地域の高齢化／どのような対策をしているのか把握していないから。／過去の災害で、道路や線路等が被災したから／市街地、農村地、工場と色々な状況を考えなくてはならないので

「成田市は災害に強い」と思う人は半数以下であることがわかりました。

「成田市は災害に強い」と思わない理由としては、「今まで大きな災害がなかったから」や「地域などで防災活動があまり行われていないから」が多く選ばれました。

また、「今まで大きな災害がなかったから」は、成田市が災害に強いまちだと思ふ場合と思わない場合の両方で一番多い回答となっています。

「今まで大きな災害がなかったから、これからも起きないだろう。」と考えることは大変危険です。「今まで大きな災害がなかったから、これからいつ起きるかわからない。」、「今まで大きな災害がなかったから、どう行動していいかわからない。」という考えから、「だから、十分に備えよう。」、「だから、家族や地域で話し合い、訓練しよう。」という防災活動への意欲に繋がるよう、これからも啓発を続けたいと思います。

Q16 その他、防災全般に関するご意見・ご要望がございましたら、ご記入ください。(自由回答) 98件

- ・はやく3年前のゲリラ豪雨の被害にあった箇所の復旧をお願いします。
- ・市では防災マップなどにより情報提供してくれているので、自分が意識を高く持って取り組まないといけないと感じた
- ・防災活動の内容を 高齢者から幼児まで各段階に理解できる様にすれば役立つと思います。可能ならば 高齢者に自宅配布できれば更に役立つ
- ・自治会で要介護者の確認をしておき、みんなで非常時の対応を話し合っておくことが必要と思っています。
- ・学校や職場では避難訓練があるが、地域の避難訓練が全く行われていません。高齢、日中独居、主婦等が、参加できる身近な訓練の機会を作ってほしいです。
- ・祇園祭など人の集まる時に『東日本震災震災復興祈願』のタイトルをつけていることがとてもよいと思っています。
- ・非常用持出し袋等、非常時に役立つものを各家庭に支給するなど行政の支援があればいい
- ・防災訓練に参加したことがないのでいざというときには困ると思うのでもっと情報を集めて災害が起きたときに迅速に対応できるようにしたいです。
- ・まだまだ意識が足りない自覚はあるので、機会があれば知りたいし、考えたい。
- ・外出先で災害にあった場合についても家族で話し合いたいと思います。
- ・場所によっては、地盤沈下や崖崩れなどがあり気になるところはありますが、以前配られた、地震に対する可能性マップ?で見ると、地盤もしっかりしている所が多く、安心なのかと思ってしまい。あまり、危機感が少ないかもしれません。子供の保育園では、頻回に訓練があり安心しています。知識も少しずつ増えて、子供とは

話した事があるのですが、主人とは…地域での、防災訓練等があると考える機会になるのかなあ？と感じました。

- ・子供がいる家庭の避難場所などを幼稚園などを通して教えてほしい。市役所などは用事がないと行かないので情報を得るには不十分のため
- ・即時的・局所的・具体的な情報提供拠点の整備とその周知が進んでおらず、水や食料の提供拠点も少なく、医療機関の少なさも早期改善は望めない当市の実態を踏まえ、広域救援が届くまでの数日を自力で生きる手段を常備する事が大切と思っています。
- ・成田に住んで9年になりますが、これまで、一度も防災訓練などに参加したことはありません。自分の近辺で、そのような訓練が行われるという情報も目にしたことがないように思います。実際には、どのような形で行われているのでしょうか。機会があるなら参加したいとは思っているのですが、広く知らせてください。
- ・ニュータウン内に井戸があれば安心。学校、福祉館に
- ・市ぐるみでの大きな防災訓練などが無い。
- ・東日本大震災の朝、自転車で各地の被災状況を確認して回り危険な個所を伝えようと市役所に向かったが対策本部などがなく対応がおざなりだった。また3年前でしょうか、強い台風がきた際（京成1番線が崩れた時）これまで大きい災害がなかった為か各地で被災が目立ちましたが、どれも復旧までだいぶ時間がかかっておりました。災害が起きてしまうのは仕方のない事ですが、近い将来より大きな災害は間違いなくやってきます。有事の際の迅速な対応、復興手続きの簡略化など、今のうちに整えていただきたいです。
- ・災害時に役立つマップなどが自治体に入ってなくてももらいたい
- ・私は現在、犬と猫と暮らしています。友達もほとんど皆さんそうです。聞くところによると、成田市内では犬猫同伴可能な避難所が無いと聞きました。彼らを残して避難など望まないのだから、私達は自宅に残るしかないんだと話しています。
- ・千葉市の知人が住む地域では、ライフラインが止まった時に、町内に備蓄してあるもので、どうやって食料を確保するのかを訓練したと言っていました。最寄りの避難場所に、緊急時用の備蓄倉庫があるとは聞いていますが、中になにがあるのかも知りません。個人で準備しておくものと重複しないよう、備蓄内容を知りたいなと思いました。すでにどこかで公開されていたら、すみません。
- ・避難経路の橋や低地の強度や水害の可能性（割合）が事前にわかる方法があるといい。
- ・個人で備えられる防災に対する啓発活動が少ないと思う。
- ・最も心配なことは、原発の影響です。成田は原発から遠いとはいっても、原発災害

時の影響は想像できないほど、危険なものと思えます。防災を考えると、是非
原発の危険を心配しなくてよい社会を実現するために、成田市も頑張してほしい。

- ・私は、成田市の生涯大学院に在席していますが、避難訓練など行っていません、また避難場所も知りません。やるべきだと思います。
- ・防災マニュアルを作っ欲しいです。
- ・自分はまだ歩けるが、老母は歩けないだろう。災害用として、手押しの車椅子が必要かな。
- ・防災と直接関係するかわかりませんが、JR 成田駅は東口と西口が分断されているため、駅が混乱すると交通の妨げやパニックになりそうだと思います。
- ・各人の防災意識がまだまだ足りないと思います。
- ・トイレが心配です。そういうハザードマップがあればもらいたいです
- ・完新世、更新世以降の成田地域の地質の実態分布を化石の発掘場所やボーリング等で確認後(推測や推定でなく)、地耐力の実態分布図を作成し、真に役に立つ建築・防災マップを公表することが必要。又、市役所雇員として、防災・減災の専門家の雇用・育成を早急に行うことが必須である。
- ・被災場所を細かく、近くに設定してもらいたい。
- ・Q15 の回答にも関係しますが、「災害に強い街」との考えは、自然相手災害では納得出来ません。常にいろいろなケースを想定し、訓練を繰り返していき、その中で表面に出てきた問題を解決していく事が求められていると考えます。「災害は忘れる」から被害も大きくなるとの気持ちであります。3.11 が「基準」ではなく、一つの結果であるとの考えであります。相手は「自然」です！！
- ・崖を背にした家屋を見かける。そうした家屋に対する対策は実施しているのでしょうか？我が家は市街から徒歩で帰宅する場合山林の多い道路を歩かなければならない。そんな場所にも要所要所にトイレの設置を考えるべきだと思う。
- ・防災と言葉にすることで、防災の何かを実行した気になっている人が多くて、何か災害がおきても実際は、何もできないことが多いと思う。成田で起きそうな災害が何かを予想することをまず始めて、それぞれに対応できることを考える機会を作っ
ていただきたい。
- ・一昨年から自治会として防災訓練を実施しています。毎年10月にこれからも実施
予定です。まずは避難訓練から実施しています。今年は赤羽さんをお呼びして講演
していただきました。素晴らしいお話でした。自治会員も非常に防災意識が高く沢
山の参加がありました。これからも自治会として防災訓練を実施したいと思ってい
ます。防災倉庫を赤羽さんにおほめ頂きました。
- ・訓練は参加しておかないと、いざという時に役に立ちません。訓練をしていただけ

ますと助かります。

- ・市から、市民に防災関連品を配るべきだと思う。
- ・災害、特に東日本大震災の時は外出先からすぐに家に帰ろうと焦って車に乗り、すぐの余震に怖い思いをして運転した。先の質問にすぐに歩いたり行動することは危険だと知っていますか？とあり、改めて少し様子を見てから行動に移すことが重要だと思いました。
- ・地域での防災訓練が行われていないので実施してほしい
- ・今までやってきた防災訓練が3.11で違っていただけではと感じました。例えば、揺れが落ち着いたら外に避難。これも家が壊れそうなら避難すべきで大丈夫であれば、家にいたほうが良いと思いました。マンションの場合、倒壊するほどの地震であれば、逃げることはできないと思います。でも、火事が起きたら避難。その場の判断力をつける訓練が必要ではと思っています。
- ・防災に関して打てる手があるのであれば、税金を使ってもやるべきだと思います。
- ・成田市では公共の場に地震ハザードマップなどを置いて防災に対する啓蒙活動を行っているが、まだまだ認知度が低いと思われる。広報などを通じ継続的な周知が必要。
- ・身近に山や崖や川が少ないことが安心です。一番の心配は外出している家族の安否確認であり、災害時の携帯の伝言板を活用したい。
- ・地域の繋がりの強さが自分、そして家族の命を助けることもある。市民の皆さん、肝に銘じてほしい！
- ・いざ聞かれてみるとわからない事、決めてない事だらけの様な気がしました！
- ・いざという時のために、高齢者・障害者を含めた合同避難訓練をやってほしい。障害を持つ子供がいるので、いざという時に動けるか不安。
- ・手動で使う消火設備の地域ごとの配備、避難はしごの購入補助、雨水を活用した設備の配備、赤ちゃんなどの避難先支援拡大など期待します。
- ・高齢者に対する取り組みが不毛である。地域の絆が薄い。地域のことを考える人が少ない。自治会に非協力であり、自治会を退会する人が少なくない。
- ・防災対策は必要なのは理解しているつもりだが、具体的な方法をよく知らない。それを調べて対策するのも面倒に感じている。
- ・停電時の備えとして、家庭用蓄電池や、車から家へ電源を入れることができるようにする工事費の補助など、もっと充実したものにしてほしいです。
- ・観光客・賃貸住人など、元の住民以外の人の方が多いので、対策を考えた方が良い。
- ・今まで外出先での防災を意識したことがなかった。普段から小さなポーチに防災グッズを入れようと思う。一番必要なものを教えてもらえる機会があるとありがたい。

- ・情報の伝達をより確実に正確に行えるように準備をしていただきたい。
- ・ペットを避難場所に連れて行くことは可能でしょうか？
- ・防災対策の小雑誌を市民に配って欲しい。緊急時対応に付いて、何が必要か。何処で購入できるか。連絡方法は。地域ごと（区割り？学区割？丁名ごと？区分けは良く分からないが、どここの避難場所は何処だと地図で示したり、そこに電話したら地域の状況把握が出来る様な情報スタイル。
（美郷台ならどうこうですよと見やすい少し大きめの地図があると分かりやすいと思います。）
- ・市民の危機感が希薄。想定外はない。日常の訓練が必要。
- ・地震で万が一生まれた場合に笛を持ち歩く事は有効とされています。可能であれば成田市全市民に、難しければ市内の小中学校及び高校に無償提供してほしい。
- ・不安はあります。自己準備を充実したいと思っていますが、地域の連携も大切ですね。どうすればいいのでしょうか？
- ・防災マップを毎年更新して、配布してほしい。ステーションも載せてほしい。
- ・乳幼児のオムツや女性の生理用品も備蓄して欲しい
- ・いつ起きるかわからない災害において、自宅で話し合おうと思った。
- ・古い空き家も多いので、それらの倒壊による被害も心配です。
- ・成田に引っ越しをしてもうすぐ、一年になります。避難場所など、あまりわからな
っていません。外部から引っ越しをしてきた人にもすぐにわかるような情報がほしい
です。
- ・家からの近い避難場所に行くまでの道が安全とは思えない
- ・家にペットがいて、万一の時でも避難所に入れません。どう行動すべきか知りたい。
- ・各自がそれぞれの状況において、最善と思われる方法でとにかく生き延びる。
- ・災害時の情報は、速やかに解かりやすくアナウンスして欲しいです。
- ・災害弱者の高齢者、幼児保護者を対象とした避難訓練を年に一回でもしておく
とよ
ろしいのでは
- ・新聞をとっていない家にも情報がまわってくるといいです
- ・一人ひとりの心がけも大いに重要であることは間違いないが、それ以上に行政や社
会インフラが頼れるものであるならば災害が起こっても被害を軽減することがで
きると思う。
- ・自宅からの避難先は決めていましたが、それぞれの場所での被災の場合を考え話し
合おうとおもいました。地区の防災訓練は、班長以上が対象だったと思います。い
ざという時の対応を、専業主婦にも学べる機会を探そうかと思っています。
- ・花崎町の表参道で、防災用設備を見かけた記憶がなく、災害後の火災などに対応で

きるのか心配。JR 成田駅を境にした東西の地域を結ぶ徒歩ルートが、実質 1 本しかなく(改札前のコンコース)、列車待ちの人で溢れてしまうと市役所側から中台方面や中台側から市役所方面に避難する人の流れが寸断される。なかよしトンネル以外にも、自転車で往来できるよう整備してほしい。

- ・大きな地震が来たとき、空港を使用して、老人や子供だけでも安全な地域に移動できるような仕組みがあるといいかもしれません。
- ・地域単位での助け合いも大事と思うので、例えば、自治会などで備蓄の為の飲料水などに助成があったらいいと思う
- ・成田は車社会なので、いざ大きな災害があったとき、道路はパニックになると思う。その時に市政から適切な行動方法を個人に連絡する手段を強固にしてほしい。無線放送での呼び掛けはもちろん、職員も徒歩で市内をくまなく歩き、特に高齢者の多い地域は丹念に確実に連絡を取る方法を強化してほしい。
- ・防犯活動はかなり実施されていますが、防災に関する活動は成田市はあまり実施されていないように思われます。地域での取り組みを支援する活動の実施をお願いしたい。
- ・登山を趣味にしているので、とりあえず 1, 2 週間ぐらいは生き延びれそう。
- ・日常的なプロパガンダを。
- ・台風等で崖崩れの被害にあっているので危険を感じています。対策を強化して欲しい
- ・小学校の備蓄倉庫が小さく、何人分、何日分の用意があるか不安。また、実際に小中学校を使用しての大規模な避難訓練も経験してみたい。炊き出しや、実際に毛布を配って体育館に待機するなど。
- ・私自身を含め災害に対する知識が無い市民はいると思います。今回はアンケートにより災害について成田市HPで確認しましたがもっと市民が意識的に防災対策を考えれるきっかけがあればと思います。
- ・自治会主導で防災訓練や防災対策をすべきだと提案したが、大半の住民はゲートボール等には一生懸命だが防災関連行事への関心は少ない、高齢者は積極的に防災活動を推進すべきである。遊んでる場合でない。
- ・災害を実際に経験してないので、楽観視しているところがあると思う。防災準備もしなければと思いつつ、後回しになっているのが現状です。
- ・災害時はコミュニティがカギになると思います。これからの時代にふさわしい、新しい地域社会の創造が望まれます。
- ・精神障害の息子とアルツハイマーの母親と 3 人で暮らしている。息子と災害になった時のことを話すが、避難所には行けないので家が住める状態であれば家で、なけ

ればテントや車の中で生活しようと思っている。母親は避難所に行かせたいが、付き添えないのでどうなるのか不安。食料や水の心配もあるし、避難所に行けない人はどうなるのだろう。

- ・成田市は全般的には災害（地震、竜巻を除く水害など）が少ない地域だと思うし、道路の広さはメリットだと思う。
- ・日常的に防災意識を持ち続けることの重要性は理解していますが、なかなか徹底できていないのが実情です。
- ・具体的に何をしたらよいのか知る機会があるといいと思います。また、いざというときにどのように行動したらよいのかがわかるといいと思います。
- ・新聞をとっていない世帯に対しても防災に関する情報が行き渡るような仕組みをとってほしい
- ・成田市のそれらしきものは見たことがないです。本当に対策してるんですか。
- ・災害はいつ起こるかわからないので、せめて自宅に居るときは大丈夫だと、気配りしておきたいと思います。

今回のアンケートでは、家庭での防災対策に加えて、外出時に災害が起きた場合についてお伺いしました。

災害は、自宅にいるときに起きるとは限りません。多くの方に、家庭での備えはもちろん、通勤・通学中等の外出時における被災に対しても必要な備えをしていただけるよう、啓発を続けたいと思います。

また、市では、災害等が発生した場合における公共交通機関の停止又は遅延により、成田駅周辺において帰宅が困難となる者、又はやむを得ず当該地域から徒歩により帰宅する者に対して、必要な支援を図ることを目的として、平成28年12月22日付けで「成田駅周辺帰宅困難者等対策協議会」を設置しました。今回のアンケートの結果を踏まえ、協議会の中で帰宅困難者等の対策について検討して参ります。